Akita University

研究紀要発刊にあたって

校長　藤井慶博

今年度から「新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる　～学びの積み重ねの実践とゆるやかなネットワークの構築～」というテーマを設定して研究を進めてきました。平成 31 年度からはじめた「児童生徒の生涯学習力を高める教育課程の編成」というテーマに引き続き，児童生徒の生涯学習の充実をテーマに据えて３年目ということになります。

令和の時代とともに，世界は，新型コロナウイルス感染症といった未曾有の危機に瀕し，Face to Faceの付き合いや元気な挨拶，会話を楽しみながらの食事など，これまで推奨されてきた生活様式の大幅な見直しを余儀なくされました。実体験や，人や物との直接的な関わりを基盤に学習が進められてきた特別支援学校の児童生徒にとっても，多くの困難に直面したと言わざるを得ません。

一方，国のGIGAスクール構想の加速化などにより，児童生徒の学びを支えるツールを得ることもできました。とりわけ本校では，５年ほど前から，タブレット端末を配布し，学習活動に活用するなどの取組がコロナ禍において功を奏しています。

コロナ禍は，予測困難でかつ刻々と状況が変化する社会において，たくましく生き抜くため，自ら課題を見出し，課題解決のためにどのようにアプローチが必要なのかを考え，実行し，評価していく力が試された試金石であるような気がしてなりません。

さて，研究は，「生涯学習力を高めるための授業づくり」という学部ごとのグループと，地域社会とのつながりを模索する学部縦割りのワーキンググループといった縦断的・横断的な体制で進めてきました。また，研究成果を報告する機会として，「夏のセミナー」と「公開研究協議会」を開催しました。いずれも校外の参加者や研究協力者の皆様から，多くの御指導・御助言をいただくことができました。以下，御助言の一部を紹介いたします。

・子どもがそれぞれ「ヒト・モノ・コト」を通して活動を楽しんでいる瞬間を教員がしっかりキャッチして，子どもに実感できる形でフィードバックしてあげる，その繰り返しが「明日もエンジョイタイムしたい！」につながると思う。

・様々な体験や学びを，次の学びに生かすためのデータベース化（メモ，日記など）が大切であり，ICT 機器がそのための有用なツールになる。ICT 機器は，子どもたちにとって生涯のパートナー，困ったときに助けてくれる，スタンド・バイ・ミーな存在になるのではないか。

・特別支援学校在学中から卒業後の「学び」を見据えた実践には非常に価値があり，本研究は社会を変える大きな可能性がある。

また，私見ではありますが，本研究を通して，教員の成長にも大きな影響をもたらしたものと考えられます。児童生徒の生涯にわたる学びの充実を模索する中で，私自身，自らの生き方・在り方に思いを馳せることができました。他の教員も同様の思いで研究に取り組んだものと考えられます。子どもにとって必要な力は，大人にとっても必要な力なのかもしれません。

末尾になりますが，本研究に御協力いただきました講演講師の先生方，研究協力者の皆様，秋田県教育委員会，秋田大学をはじめ，多くの方々に深謝申し上げます。